

尚和会報

発行者 責任編集

農中豊 岩山行

洋一

所五

通東

和

金田

洋一

歩いた話

ふらましよ、山へ
向和会の發展を期す

会長 矢野 鈴子

機の會のよいむ頃、今年もまた櫻塚高校の門を後に幾百人の人が世の中に出て行きました。そしてその花の開く頃には新校章をつけた人達が門をくぐりくることになりました。思ひ出は豊富にあるはまだ、運載出来るださうといわねる程その頃りである。共に学当初生徒貢の交流が行われた母校に震れたのです。は誰一の存在(へ)となり、十四高女誕生記を書いたが、吉川さん辺りではなかったかと思ひ。今は幼稚園位のお嬢に由語係を承つてこの形で前回十四高女誕生記を書いたが、現在我の運命三連あるかなばれ。あ想に由田をこわれるといふのよなマヤさんやね。世辞が冗(う)べれえた久潤の辞である。事實へが栗坊主連中を迎えてから又々仕事が賑やかになり年を取るの急いで勝氣がある。だから想ひ出を絶えで塗わなくて同級諸姉の為に言じておくるが「先生は少しあ變(か)ない」と云ふのがお世辞が冗(う)べれえた久潤の辞である。事實へが栗坊主連中を迎えてから又々仕事が賑やかになり年を取るの急いで勝氣がある。だから想ひ出を言わると急に老いこんだ氣持にさせられるのが女年連ばかりの時代にあらんなど窮みよう。昔はよく歩いたものだった。創立が由田支事変と同時に、たゞ、鍛錬の意味があつて歩け歩けど運動したので選定であ電車を乗り廻すよりは歩行料程の多いのを誇りする眞にケナケナなのでいた。法隆寺からの生駒の東山裾を通りて暗越えをして瓢箪山駅まで強行したのは高女一期の1年生の春間でなくだらうと思ひ。1-3年生と摘要の長距離歩行であった。西宮市の大田神社に集合し、由田、高家を経て池田までやせに115分後位に出来たがこの由田山辺りに通い越して高橋駅で解散した事ある。モルヒネの原料である芥子の八重咲が青野村一面を覆

おもむね必ず
居られる。
一人一人、
夢において
親のそれを
實行してお
る。親子、子
て本務があ
る。親族のそれ
を自覺し
て建設的に
考案し、総
じて、理解する
と、より一層
実現の意欲
を高め、その
結果として、
家庭生活の良
い風土が、社会
に広がること
である。

高五期　多くの人が、いまひと度、この頃は、いとalusな次第に、方へお願ひした。試験勉強へとせられたばかりといつては既に、徳の個性を生かし、説教はする。蘧々と、透き高校生活を継ぐに配慮してこただ男の子が女の子の子に、いつて禮儀警戒が、心地よいものでは、その入学率が、なぜか、この間は、その入學率は、大きくなる。そこで、その校舎のすゝめは、難然とした。かくして、その入學率は、大きくなる。それで、その身の入った、真の身の入った、元氣が必要だ。それはかぎりのない、めでたく、かうって、にしまっては、何をあらう。休生をいっしょに、生徒をいっしょに、にじめることが、なまなましい、かうって、だ。

近く　塩尻 寛
運は学校を卒業して在々にして、学校とは
がちであるが、こ
りがちであるが、こ
うしてくるクラブを
とめた指導なり共
が出来る筈である。
己を大きくする
走らず、その精力の
校の骨に走り込んで
た墓やマーチン
と後からでも十分
う。よく言ふ自分は
る。だけ援助して来
う。あつたと想はれる
その結果は決して双
くにはなってしない
にしほけていいの
うか。毎朝機械人形
居間で、急ぎ八時間余
りの光る中で黙々と
て徒らに時間を費
自然、専門会の案
事務過ごしのまことに
い。これは実に
学生と違つてしま
はばかのであるが
直譯話し合ひより
う。十分に貴君の
うして思ひ
うが出来る。そし
週一回の休暇があ
うが、やめて専門
極力出席願いた
る。

度で、強力な
レームが、新
生産によつて
る」ことができ
ます。

志上みさづれな誰かして下走り
方式と大衆化しました



想

浅田伊津子

姫になり、侍女三千十七匹にか

しむれ、

アイク、チャーチル

、マレンコフ等を招待し、水爆

の宴を繰り抜け、歴史の方

と並んで余り賣る良い方ではな

いきません。

孤こいえは、けだもの界では化

体がつらう、細面で神經質な

けたに化かしたり、鷹頭筋の狸

表情流連の扇を引いて、ス

ンドは取りとめぬない筆のすき

マートな四肢、口に澄まじく

ひを軽りイズムに乗せて至る春の

向転換に世紀の役割を果して

、チクタクチクタク時計のセコ

「よく人へはこう、成程表面は

「我思り故に我在り」

とくろ

の世界に一致すると思ふ、物

「船乗りはこゝなあ、給料高

正月もないじみに日本を出でる

手の平凡な主婦です。在学中は

いし世界何處でロハド行ける

南へ二、三日されシヨン一枚

「狐羅帳」おどりやの「狐妻

「狐羅帳」に化けたのである。では

したが、

身を離れていた間に

よし

したが、

船乗りとして一晩も通じて

海で寝る事無く、

こんな人も

和の前でよく笑顔をみたのです。しかし、マイ・パート・ド・ギリントンに思えます。けれども疲労をやさしくしておきながら、彼女とのスイートな恋愛がはじまりますと、いくつもの興味ある講義や張り切った友達の顔がぼやけなくていいのはやはり幸いなことです。社会へ出てしまると仕事に忙殺され何事も情熱的になり勝ちます。けれども常に自分をあつめ、自分の道を見定めて行きたいと思っております。皆さま方々の道ががんばって下さいますように。

高校四期

トニー・古沢

一 同 情 生

学生時代は、全く余裕があり、自分の欠点などさらす機会に色々のことがあったんですね。酒、煙草の味を覚えていたんですね。パンチコロもうまくなり自称ペチコロ名人、こんな軽べつるのは悪いことでした。母校園を卒立つこと一年や二年その間に色々のことがあったんですね。なんさんすよ。これこそ怒ったんだがんす。パンチコロもうまくないわね。このことを悔いて正直になくなっちゃ、悪人だと思つては嘘の一度ありませんでした。ところが勧め始めると、お客様によつては自分で早目点に叱られる、同僚から注意される、悪口を時には言われる、場合によつては自分で早目点にして、あらぬ疑いを隣の人에게つたりして悪人になりたらされたり、私に向こなつてころがあつたのかと驚かれるのです。

例えば、客に仕事が遅いとかられる。大抵そういう時は皆が忙がしい最中で、自分一人の失敗を認めたのか、どうしてこんなに腹を立ててから田へ来たのだと後悔じまいます。

トニー・古沢

一 同 情 生

りしてこの一寸魅力がある、などからかわれる頃、これは少々考え方の違いますね。世間は恋愛の悪い面ばかりを題にするさん。故に世間の問題で腕を組んでがっかりします。たゞわわわわのことをアキラムで終わる男の人と女性の交際をあたたかい目で見てくればんざんす。私は情熱的で、これが映画の題名です。なんさんすよ。これこそ怒ったんだがんす。パンチコロもうまくないわね。このことを悔いて正直になくなれば運氣持よく暮せなくなります。

ふと又戻返しその時、あの時恥しかったことを思い、じぶらんとい聞かせます。そして幾度か繰り返していく間に自分の短所が分り、自分自身で良心の納得のゆくまでそのことを悔いて正直になくなれば運氣持よく暮せなくなります。

今こうすればあの人はいやになるのです。

仕事の上ばかりではなく、感情の問題、義理人情の問題も度は許してあげたいといいう気になれるのです。

春を迎へる。話題入門の見聞は、大變なるものであるまいか、字學の如きではなくかと思ひます。

耘場に在つて

2

春を迎へるのではないかと思います。少しでもお読みください。大学時代は後にしてやり直さねばならぬくなるのであるまいから、もう一度読まなければなりません。それで、この春を迎へるのではなくて、もう一度春を迎へるのです。

春を迎えて

井 治 彦
え て
（高校四年）
佐 竹 由 美 子
一 活
（高校一期）
後同室者と時事問題や映画についての感想をたゞお国自慢を語りました。二年生は余ったり体中のプランをだしたのです。それは最も樂しい事の一つであります。余り夢中になつて翌日の所なります。休みが開かれて居ます。春になると、新入生迎会に始まる種々の行事が行なわれ、夕食後、ダンスをして余る。年に二度行われます。この活動は、研究会が開かれて居ます。春

生
活

三

（本と西本具合）聞じる
聞くわけにも 布施市

お貴しくてすがたにまことに二十五年の歳月、ついであります。御心配にあすからず、手の負傷は、おかげさまと申すが、かり療りました。但し傷跡は、ひしき、難愈否定を叫んであります。再び同じ苦しみに、以上の悲惨に誰一人もあらないようとの願いは切ないです。一方の御健康と御活躍をじめません。

四年生の一一行六十一名先生以下三名の教員にて、東京植物園方面に定められた雨を乗物の途中で、阿蘇櫻花の懸念があり、また九月には旅行に風水害がありであります年ではあった月に入って、その前年八月には、四月に全日本旅行と合同で行われて、が、この年から定期制権化されることになったが、さらに一層そのさを増したとは私だけはなかろう。

